

◇巡検の記録◇

勝沼・一宮巡検（10月2日～4日）

10月2日～4日、2泊3日の勝沼・一宮巡検が行われた。今回の巡検の目的は、「甲府盆地東部果樹栽培地域の産業と生活を自然とのかかわりで考える。」ということであった。私たち1年生にとっては夏休み前に行われた多摩巡検に続いて2度めの巡検である。当日は午前11時に国鉄中央線勝沼駅前に集合ということになった。多摩巡検の時とは違い初めての現地集合ということで(?)5人という大量の遅刻者もでたが、(約1時間の遅刻。)1年20人プラス院生の方1人からなる巡検メンバー全員無事にそろい、井内先生の指導のもと巡検がスタート。

2日(木)。今回の宿舎となったぶどうの丘センターから徒歩でマンズワインの勝沼工場へ行き、ぶどう作り・ワイン作りについてのヒアリングと工場内見学。その後、宿舎に戻り、勝沼町役場職員からの勝沼町概況についてのヒアリング。

3日(金)。京戸川扇状地、金川、かすみ堤、甲斐国分寺、同国分尼寺跡を主に徒歩でまわる。一宮町役場での一宮町概況についてのヒアリング。

4日(土)。南野呂の部落の組合長宅でのヒアリング。個人経営のワイン工場「甲州園」見学。

以上で3日間の予定はすべて終了し、現地解散となった。

これまでの巡検で知ったことは、修学旅行と巡検は大変よく似ているが大変違うものだという事である。少しでも事前にその土地を調べて訪れると、ばく然と見るだけというよりはるかに得るものは大きいということがわかった。今後の巡検ではよりいっそうの事前調査の充実が望まれる。

☆こぼれ話

その1. 全員一致で、井内先生の意をくみ3日の夜、会食を行う。メニューはすきやき。

その2. ぶどうぜめにあうかと半分期待していたぶどうの丘センターにぶどうは一粒もなし。

その3. 「歩け歩け巡検」を合言葉に今回の巡検ははじまったが3日めにしてダウン。タクシー登場。

(井内先生指導 1年 江見由香里)

五日市巡検（11月30日）

二年生にとっての重要課題、〈地形〉を考えるべく、「関東平野の盆地」というテーマに取り組むことになった。手初めとして、11月30日、五日市巡検を行った。メイン巡検として、3月には、柿岡盆地を含む筑波巡検を予定している。一年の巡検でも雨にたたられ、五日市巡検でも、雨のため11月29日の予定が30日に順延となった私たち。3月は、天候に恵まれるよう、祈るような気持ちである。

五日市盆地は、地形上の盆地ではなく、地質上の盆地である。各所で露頭を観察し、クリノメーターに悪戦苦闘の道中であった。段丘・谷中分水嶺・台地などの地形観察では、「地形学・地質学をもっと勉強せねば。」と痛感した。何よりも収穫は、クリノメーターの使い方を覚えたことではなかろうか。このように、地形が主なテーマではあったが、人文的な観察・聞き取りも、随所で行った。私たちが感激したのは、ウルトラマンにでもできそうな巨大変電所。ここでは、クリノメーターを使って、送電線を地形図に書き入れるという、私たちにとっては、離れ業とも思えることを要求された。このような無知な私たちをやさしく御指導下さった式先生に、一同、感謝してやみません。

(式先生指導 2年 日和田裕子)

猪苗代巡検(10月4日～7日)

10月4日12時30分、全員例の如くGパンにリュックサックという出立で、磐越西線関都駅に集合した。いよいよ、内藤・三上両先生のもとで猪苗代巡検が始まる。

まず、私達は関都駅から川桁断層を右手に北上し、周辺の土地利用や家屋の形態などを観察した。このあたりの家屋は完全な中門造りではないが、それに類似した形式のものが目についた。また、りっぱな門構えの家が多く、裕福な農家が増加してきているのが観察できた。土地利用については、区画整理された水田が一面広がっていたが、道路沿いのわずかな土地に野菜が栽培されていた。途中農家に立ち寄りお話を伺った。それから観音寺に向った。ここには「荒野邑、宝永6年10月」と彫られた石があり、この付近の地名が、荒野→コウヤ→幸野と変化していったのが理解できる。観音寺から水無川沿いに砂防ダムなどを見ながら川桁駅へ。そして、ここからバスで宿舎へ行った。

第2日めは、標高1,430mの赤壇山登山。絶好の登山日和であった。重い足をひきずり、体力の衰えをひしひしと感じながらも、さすが偏形樹の観察だけは怠らなかった。偏形樹は典型的な片面樹冠であった。これによって風向が推測できる。2時間30分くらいで頂上についた。ここからの眺望は絶景で、猪苗代湖の全景が一望のもとに見渡せた。ここで昼食をとり、沼ノ平へ足を向けた。数千年に形成された構造土が観察されたが、典型的なものは存在しなかった。それから少し登り、爆裂火口に出た。真に迫力があり、爆発時の破壊力の強さをまざまざと見せつけられた思いがした。下りは何度も寿命が縮む思いをしながら、琵琶沢に沿った険しい道をおりてきた。皆、あちこちに傷をつくり、ヘトヘトに疲れたが、どうにか無事下山できた。

第3日めの午前中は町役場でお話を伺った。主に話題となったのは、今年全国的に大きな被害を出した冷害のことであった。品種選定など冷害対策が行われている一方、被害に対する補償も重要な問題となっている。また、猪苗代は「農業と観光の町」というキャッチフレーズをもとに政策を施しているが、観光収入は農業粗収入の3～4倍なのだそう。午後は冷害試験地を見学した。多品種の稲が栽培されいろいろな研究がなされていたが、不思議なことに、冷害に関する研究はないということだった。見学を終えると、折悪しく小雨が降り始めたので、タクシーから見祢の大石を垣間見ること